



佐久間会長「公益法人化は大きな意義」

定時決算総会

5月13日(日)午後2時より、ウェスティンナゴヤキャッスル天守の間にて定時決算総会が行われた。

冒頭佐久間会長は、「役員や会員の協力により、4月1日、本会は新公益法人として発足した。このことは山積する問題のなかで大きな意義がある。県民の健康福祉の増進にすべてつながるといふ大きなテーマで今後は取り組んでほしい。新制度のなかで開かれた会の運営を旗印に、執行部と各支部の連携を密にして、難局に向かって船出させていきたい」と抱負を語った。

その後、竹内健二(刈谷)・木村雅克(一宮)両会員が司会を務め、物故者(6名)への黙祷、新入会員(30名)紹介と激励、長寿・喜寿表彰(各3名)につづいて、新体制の公益社団役員13名と支部長10名が紹介された。河合一弘(豊橋)・山口雅彦(鶴舞)の両会員が正副議長に選任され、以下の議案が質疑応答・審議のうえ、午後3時25分承認された(出席者348名、委任状提出者368名、会員総数837名)。



- 第1号議案 平成23年度事業報告書承認の件
 - 第2号議案 平成23年度財務諸表承認の件
 - 第3号議案 平成23年度収支計算書承認の件
- 監査報告



午後3時30分からは、愛知県接骨師会共済会決算総会が行われ、本会総会と同じく、河合・山口正副議長の議事運営のもと、午後3時42分、以下の議案が承認された。



- 第1号議案 平成23年度事業報告承認の件
- 第2号議案 平成23年度収支決算書承認の件
- 第3号議案 監査報告

総会終了後、佐久間会長が公益社団運営方針を述べ、柳田副会長が直近10年の社団データを提示した。また森川副会長が厚労省保険局からの療養費適正化について詳述し、出席者は真剣に聴き入った。

5時からは算 芳幸(岡崎)・佐野 恵(半田)の両会員の司会進行で、大村秀章愛知県知事、河村たかし名古屋市長ら多数の来賓をお招きして懇話会が行われた。足かけ5年の熟慮と準備を整え、東京・大阪につづき公益法人化を果たした役員と会員の決断に、来賓から敬意と今後への期待の言葉を頂いた。また10年にわたり理事として社団運営に貢献した伊藤勇造会員(鶴舞)と安井 豊会員(中村)の2名が知事表彰を受けた。

恒例の協同組合の抽選会も賑やかに進められ、午後7時、盛会のうちに懇話会が終了した。



愛知県柔道整復師会 災害救護赤十字奉仕団活動報告

5月3日(木・祝)、日本赤十字社愛知県支部「広めよう赤十字!5月の愛知一斉キャンペーン」に、愛整会赤十字奉仕団活動として事業部小林弘治と河合一弘部員の2名が参加した。

午前9時30分、JR名古屋駅前に集合、日赤愛知県支部の方から説明を受けた後、日赤ベストを着用し幟(のぼり)を持って活動を開始した。県内の他の奉仕団から参加された総勢約30名とともに、周辺5箇所に別れて日赤のパンフレットが入ったティッシュを街行く人たちに配布し、日ごろの日赤活動にご協力・感謝の気持ちを伝えた。

(事業部長 小林弘治)

(^_^) 翔・新入会員 (^_^)

氏名	生年月日	地区	出身校	段位	趣味
齋藤 正憲	S53.9.10	熱田	名古屋保育	初段	ダイビング
佐藤 貴正	S52.6.9	中村	米田柔整	-	旅行
霜出 絢	S57.1.23	刈谷	米田柔整	-	ゴルフ
山北 陽一	S52.4.28	中村	米田柔整	初段	釣り
笹木原久貴	S57.12.29	大曾根	米田柔整	二段	スポーツ観戦

各委員会委員

療養費適正委員会	佐久間稔晴 長谷川貴一 山口雅彦	森川伸治 小林弘治 田中俊彦	柳田松三 春日井和幸 柳 敏雄	堀 孝利* 早川信義	石田健太郎 内田光昭	藤川和秀 伊藤勇造	算 芳幸 早川岩雄
組織強化委員会	佐久間稔晴 長谷川貴一	森川伸治 小林弘治	柳田松三 春日井和幸	石田健太郎* 早川信義	藤川和秀 森 真由美	堀 孝利 中村 太	算 芳幸
学術委員会	森川伸治	算 芳幸*	佐藤隆史	林 厚宏	山岸裕幸	山田直樹	
災害対策委員会	柳田松三 石川 真	小林弘治* 星野彰二	松浦洋雅 黒瀬広幸	伊達 満 河合一弘	田島正博 ¹⁾	小林 茂	木村雅克
機能訓練研修委員会	森川伸治 加藤博史	早川信義* 竹内健二	倉橋健司 長谷川貴一 ²⁾	古賀 一 三谷 誉 ²⁾	* 委員長 ¹⁾ 災害無線委員長 ²⁾ アドバイザー		
IT委員会	森川伸治	長谷川貴一*	長谷川高一 ³⁾	³⁾ 協同組合			

愛知県接骨師会共済会 役員

会長	森川伸治
副会長	伊藤勇造
経理担当	藤川和秀
総務担当	中山裕章
監事	佐野 恵

愛知県柔道整復師連盟 委員・担当者

委員長	佐久間稔晴	副委員長	柳田松三
常任委員	石田健太郎(総務・会計責任者職務代行)		
会計責任者	佐藤敏樹	監事	河合一弘
支部担当者	山口雅彦 岡崎寿廣	竹上 勝 佐野 恵	濱 巧 早川岩雄 田中俊彦 石川益郎

※中村支部担当者の変更

総務・事業担当者が下記のように変更になりました。

	総務	経理	保険	学術	広報	事業	柔道	介護
中村	遠藤享昭	田中俊彦	田中俊彦	近藤寿幸	半谷和男	鈴木英夫	野村時丈	長瀬理次

山本会員(半田)、柔整師の認知度アップに貢献

山本カヨ子さん(53)

治る力引き出す「手」

柔道整復師

山本カヨ子さん(53)

「治る力引き出す「手」」

山本カヨ子さん(53)

「治る力引き出す「手」」

山本カヨ子さん(53)

「治る力引き出す「手」」

きっかけは、ある懇話会での中日新聞社からの打診であった。編集局生活部・間野丈夫部長から、同席した佐久間会長に、独りで頑張っている女性柔道整復師の記事にしたいので紹介してほしいと依頼があったことから、4月20日(金)の中日新聞・23面「天職ですか」に、山本カヨ子会員(半田)が大きく取り上げされた。

紙面では、柔道整復師の歴史や手法を取り上げながら、山本会員が父の跡を継いだ経緯や日常業務の模様などを紹介し、山本会員が感じている仕事の喜びや抱負を、多くのスペースを割いて伝えている。

掲載後は友人や知人からの電話が絶えないという。「接骨院の仕事の内容がよく分かった」、「今まで柔道整復師がどんな仕事をしているか知らなかった」という

内容が多く、山本会員は柔道整復師の認知度アップに貢献できてよかったと喜びを語った。

中日新聞社には、少年少女柔道大会や県民公開講座などの公益事業でたびたび後援をお願いしたり、総会時のチャリティ募金や、四国・ハイチの大地震、東日本大震災で同社事業団へ義援金を寄託するなど、以前から良好な関係を保っている。今回の新聞掲載もこの中から生まれたものである。

4月1日、本会は公益社団法人に移行したが、それ以前よりさまざまな公益活動に励んでいる。これらの活動が柔道整復師の認知度向上につながったひとつの例である。移行後はさらに今まで以上に地道な努力を続けていくことが重要であろう。